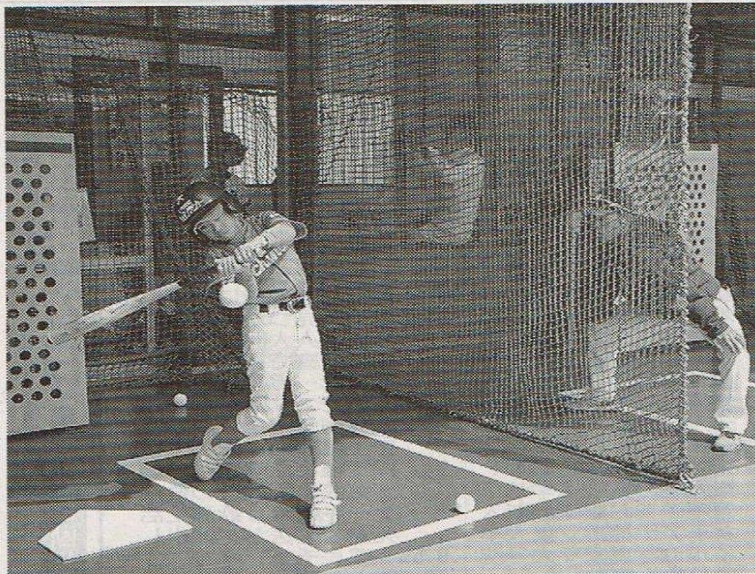


バッティング施設完成

上富田町 市ノ瀬 地域の交流拠点に



上富田町市ノ瀬の愛郷会が運営する「いちのせバッティングセンター」が25日、リニ

ユールオープンした。内装やトイレを中心に改修し、家族連れらが利用しやすくなっ

た。地域の交流拠点としても活用していく。

市ノ瀬愛郷会が1970年、青少年健全育成などを目的に建設した。国道311号沿いにあり、近年は田辺・西牟婁で唯一のバッティングセンターとして町内をはじめ周辺市町からの利用が増えていた。一方で老朽化していたため、愛郷会の総代会で承認を得て改修した。

新しい施設は鉄骨平屋、延べ床面積約160平方メートル。壁には紀州材を使い、来場者がくつろげるスペースを設けた。マシンは従来通り軟式ボール用が4台、ソフトボール用が3台で、球の速さや高さ

和歌山ファイティングバースの選手の手指導でバッティング練習をする児童（上富田町市ノ瀬で）

を調整できる。以前はなかったエアコンを備え、季節を問わず楽しめるようになった。トイレは広くなり、男女で別々になった。

1ゲーム25球200円で、オープン当初から値段は変わっていない。2千円のメダルを購入すれば以前よりも1ゲーム分多い13ゲーム遊べる。メダルは自動販売機で購入できるようになった。

市ノ瀬地区の団体や住民でつくる「市ノ瀬まちづくり推進協議会」は、バッティングセンターとその周辺を交流拠点として住民や観光客らに利用してもらうことを計画している。

25日は記念式典があり、小出隆道町長らが参加してテープカットや餅まきで完成を祝った。市ノ瀬愛郷会の山本睦昭会長は「地域のコミュニティの場として皆さんに愛されるように運営していきたい」とあいさつした。

野球独立リーグ「和歌山ファイティングバース」の山崎章弘監督と選手4人による野球教室もあり、日頃の練習で

施設を利用している市ノ瀬少年野球クラブの児童らがバッティングを教わった。主将の松谷仙君（11）は「教わったことを生かして打球の飛距離を伸ばしたい」、中瀬友斗君（11）は「施設が新しくなってますますやる気が出てきた」と喜んだ。